

平成 2 5 年度 学校評価結果

領域	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ
学校経営	① 学校行事や生徒の様子に加え、保護者あて文書もアップロードするよう努めた。 ② 授業公開週間中の参観者は1学期10名、2学期7名であった。 ③ 各学期に教員研修を実施し、職員相互の交流を図った。 ④ 冷房の設定温度等について、保護者と連絡をとりながら快適で適正な環境整備を図った。 ⑤ 記念事業については、計画的に実施することができた。	① ホームページ担当者からの原稿の依頼や、各部署からの情報提供などがより活発に行えるよう、環境を整える。 ② 授業公開については、より多くの保護者が参加できるよう、日程や通知方法など工夫したい。 ③ より安心して学校生活を送れる環境づくりのために、研修活動を充実させる。 ④ 保護者と連絡を密にとりながら、さらなる施設設備の充実・改善を図る。	さまざまな授業の取り組みや、部活動生徒によるボランティア活動など、これからも地域に根ざした地道な活動を継続してほしい。 保護者の声を学校は真摯に受け止めるべきであろう。	保護者・地域に学校のことを一層理解してもらえるよう、引き続き情報提供に努めることが重要である。 地域包括支援センターなど、積極的に地域と連携を図ることにより、地元で活躍する高校生を育成したい。
学習指導	① 授業公開は保護者対象に各学期1回ずつ、中学校教員対象に2学期に1回実施した。 ② 卒業生へのアンケートは現段階では未実施であるが、概ね良好な感想を持っているようである。また、英語検定補講を受講して準2級に合格した生徒もいた。 ③ 漢字検定3級合格者数は以下の通りである。 平成22年度 51名 平成23年度 60名 平成24年度 96名	① 授業公開については、参加人数が少なく、より多くの先生方に見ていただくための方策を考える必要がある。また、小・中学校の参観においても、本校職員の多くが見に行けるような工夫が必要である。 ② 授業アンケートの結果を、教科ごと、さらに学校全体で集約し、検討したい。 ③ 3級の合格者数は年々増加してきている。今年度の結果は、1月の検定結果を待たなければならないが、2級についても今年度すでに4名が合格していることから、非常に期待できる。	基礎学力の向上を目指して、現在の取り組みを継続することが望ましい。また、地域の特徴を教職員にも十分に理解してほしい。	学校の教育活動の中心は授業であることを再認識し、授業を中心に様々な形で地域との協力関係を構築したい。 保護者に授業参観に積極的に参加してもらえるよう努める。
生徒指導	① 今年度は昨年度から1クラス増で20クラスとなったが、遅刻数は昨年度と比較し2回しか多くなっていない。遅刻率を比較してみても目標の0.1%までは届かなかったが、0.08%減少している。1人あたりの欠席数を見ると、1学年は他学年と比較しても非常に低い値である。平成22年度から毎年行っているが、年々、遅刻率は減少傾向にある。教員の指導が効果を上げていると考えられる。 ② 生活を見直す週間中とその前週を比較したところ、統計的に有意な増減は見られなかった。特に11月は行事も無く通常日課が続くので、遅刻や欠席が多くなる傾向がある。来年度は見直す週間も含めて、何らかの対策を立てなくてはと考える。 ③ 生徒指導部からのアンケートは実施できなかったのもので、来年度は実施したいと考えている。また学校評価アンケート結果から、概ね生活指導は、しっかりしているという結果が出ているので今後も続けていきたい。	① 目標値には届かなかったものの今年度も遅刻率を減少させることはできた。次年度は更に遅刻率を減少させていくと共に、11月の遅刻の多さが目立つので何らかの対策を立てたい。 ② 今年度は特別指導対象者が4件4名と昨年度の14件23名から激減した。次年度も特別指導対象者の減少を目標とし、生徒指導部だけでなく学校全体で取り組んでいきたい。	様々な面で生徒指導の効果が表れており、大いに評価できる。 活発な部活動は素晴らしい。地道な活動を継続し、ぜひ全国を目指して頑張ってもらいたい。 困っている人や下級生に対して、優しく接することのできる愛情をもった支援ができるよう、指導を続けてほしい。	これまでの生徒指導の実績を踏まえ、きめ細かい指導を継続するとともに、保護者に学校の様子を理解してもらうための一層の情報提供に努めたい。

領域	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ																				
健康・安全教育	①今年度は地域と連携した防災訓練を実施できなかったが、全校生徒分の備蓄品を準備することができた。 ②マナーアップ活動は１１回実施し、およそ２０名の生徒がこれに参加した。 ③安全意識向上および校内事故防止について ・本年度は感染症の流行が見られず、感染した生徒も少なかった。 ・健康や安全に対する保護者、生徒、職員の意識は高い。 ・次年度、さらなるクラス増へ向けての施設面の検査、準備を行った。 ・防災訓練を通して、震災に対する生徒、職員の意識を高めることができた。 ・学校事故（スポーツ振興センター給付金手続き件数） ２３年度：５５件 ７６１，８８０円 ２４年度：９６件 １，４８２，６８８円 ２５年度：３６件 ８９７，２１７円(２５年 １０月現在)	① 地域と連携した防災訓練の実施を計画し、実施する。 ② マナーアップ活動は継続して行う。 ③・今後も様々な感染症に対し、個々の感染症に対応した予防策を徹底する。 ・校内施設、設備の老朽化によって、危険箇所が増大していると思われるので、今後も調査を日常的に実施する体制を作る。 ・床のピータイルの修繕等、抜本的な対策を検討する。	地域と連携した防災訓練をぜひ実施してほしい。 また、交通安全について、重視して指導してほしい。自転車マナーアップ活動は、今年度から校門前のみでなく、平和台駅前でも実施しているが、一層のパワーアップを図って欲しい。	地域に開かれた学校として、地域と連携した防災訓練など一層の検討を進めたい。 よりよい学習環境の整備に向け、課題発見に努める。																				
キャリア教育	① 生活指導や学習活動を通して、進路決定に向けての基盤ができた。また、進路指導部としては企業訪問・入試説明会等で得た情報の提供、進路行事・進路相談等の充実を図り、進路未定者の減少につなげることができた ② 進路指導は予定通り実施することができ、生徒の進路実現に向けた取り組みや成果も実感できたが、生徒数の急増に反して、部員の削減など、年々進路指導部の業務が増大しており、現在の手厚い指導体制を維持してゆく上で、実施回数等を精査し改善してゆく必要性に迫られている。 ・１学年：各HRでの進路指導（進路ノートの活用）。外部講師を招き実施したキャリア講座（１１月）。１・２学年を対象に調理分野で活躍している職業人を招いて実施した職業人講演会（１０月）。 ・２学年：各HRでの進路指導（面接基本練習など）。キャリア講座の実施（６月２回／２月１回）。職業人講演会の実施（１０月）。 ・３学年：大学／短大説明会・専門学校説明会（各３回／４・５・９月）。就職説明会（年間９回）。面接指導（就職６回／進学３回）。保護者進路説明会（５月） ※ １２月までの進路内定状況（在籍者数に対する割合） <table><tr><td></td><td>２２年度</td><td>２３年度</td><td>２４年度</td><td>今年度</td></tr><tr><td>進 学</td><td>４４．８％</td><td>５０．８％</td><td>５９．８％</td><td>６４．６％</td></tr><tr><td>就 職</td><td>２４．０％</td><td>２２．１％</td><td>１４．８％</td><td>１８．８％</td></tr><tr><td>未 定</td><td>３１．１％</td><td>２７．１％</td><td>２５．４％</td><td>２１．１％</td></tr></table> ③ インターンシップについては、以下の通り実施した。 ・７月は３期で実施：１期５名、２期４名、３期４名が参加した。 ・１２月は２期で実施：１期４名、２期５名が参加した。		２２年度	２３年度	２４年度	今年度	進 学	４４．８％	５０．８％	５９．８％	６４．６％	就 職	２４．０％	２２．１％	１４．８％	１８．８％	未 定	３１．１％	２７．１％	２５．４％	２１．１％	発達段階に応じたキャリア教育を推進してきたこれまでの進路指導体制を維持してゆく上で、生徒数の急増に対応できるように、進路行事の精査、改善を進め、全ての生徒の進路希望が叶えられるよう、より効果的な支援を目指して取り組んでゆく。	保護者とも連絡を密にとりながら、生徒の進路実現と進路未定者の減少を図って欲しい。	現行の指導体制を維持しながら、保護者とも連携して、一人一人の生徒の進路実現を目指したい。
	２２年度	２３年度	２４年度	今年度																				
進 学	４４．８％	５０．８％	５９．８％	６４．６％																				
就 職	２４．０％	２２．１％	１４．８％	１８．８％																				
未 定	３１．１％	２７．１％	２５．４％	２１．１％																				